

『Mind Charging』

第 49 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 6 月 4 日

福沢諭吉の名言



世の中で一番楽しく立派な仕事は一生涯を貫く仕事を持つと云う事です。

この言葉を残した福沢諭吉は、一生涯どころか没後の現在も一万円札の肖像という仕事を今も継続していますが、彼の生きた時代と現在との違いとしては職業としての仕事は多様化し、転職することも珍しいことではなくなりました。彼の言葉を現在に置き換えてみると、『人間として』『地球に生きる者として』の仕事と考えられると思います。

地球上には様々な植物・動物が生息していますが、新たなものを作り出して地球の『見た目』まで変えられるのはおそらく人間だけです。変わったことによって恩恵を受けるのも、おそらく人間だけでしょう。その一方で、人間が作ったものや、作る過程の中で排出された有毒物質によって環境破壊に繋がり、人間以外の植物や動物が被害を被っているという現状から目を逸らすことは許されません。環境破壊をしたのは人間ですから、保護や改善を行うのは、もはや『義務』と捉えるべきでもあります。そういう意味で、『SDGs』に代表されるように地球環境を改善するためにできることや、人間を含めた全ての生物が共存しながら繁栄していくためのバランスは、どのレベルで保つことができるのかを考え、達成していくことは『一生涯を貫く仕事』と呼べるものではないでしょうか。

この仕事を成功させるためには、人任せにせずに『ひとりひとり』が実践していくことや、自分の身近なところだけでなく、自分が直接関係しないところの現状についても、可能な限り『知っておく』ことが重要だと思います。ゴミを増やさないことや大気汚染に繋がることを極力抑える努力など、些細なことでも自分だけでもできる環境保護などを実践していくことは、我々人間が生きていく上での『ミッション』です。そして、地球上の豊かな自然環境や豊富な資源の中で、人間の生み出した様々なテクノロジーを駆使して何の不安もなく暮らしていくことができれば…。想像しただけでとても幸せですね。世界中の人々が団結し、みんなで楽しく立派な仕事を成し遂げていきたいものです。(編集委員：入試広報室 鈴木)

福澤 諭吉(ふくざわ ゆきち、新字体:福沢 諭吉、天保 5 年 12 月 12 日(1835 年 1 月 10 日) - 明治 34 年(1901 年) 2 月 3 日)は、日本の武士(中津藩士のち旗本)、蘭学者、著述家、啓蒙思想家、教育者。諱は範(はん)。字は子圃(しい、旧字体:子圃)。揮毫の落款印は「明治卅貳年後之福翁」。雅号は、三十一谷人(さんじゅういつこくじん)。もともと苗字は「ふくさわ」と発音していたが、明治維新以後は「ふくざわ」と発音するようになった。現代では「福沢諭吉」と表記されることが一般的である。なお「中村諭吉」と名乗っていた時期がある。(Wikipedia 参照)